

別表 樹種による管理方法

凡例: 落葉樹 常緑樹

No	樹種	状況	対応	生長度と管理要点
1	アオギリ	夏・秋の両方とも落ち葉があり、葉が大きく滑りやすい等の苦情もある。今年は害虫が大量発生した。	沿道に接している住宅や商店街については2年に一度の剪定が必要。葉張りが横に広がるので自然樹形に適していない。	生長は速く、萌芽力があり、主枝(一番枝)部位による強剪定を行った場合、当年枝の伸びは1.5m程度に達する。 この枝の伸びを極力少なくするためには、残す枝数を増やすことが重要である。そのためには、一番枝・二番枝をバランスよくつくり込み、二番枝もしくは三番枝部位による切り返し剪定を行う。花と実を鑑賞できるように管理する。
2	イチョウ	紅葉は綺麗だが、落ち葉は腐りにくく滑りやすい等の苦情がある。比較的沿道に住宅が余り接していない。	下枝を上げ、樹高を決めて管理していけば、自然樹形に適している。	長寿の代表的な木で生命力が強く、生長は速い。萌芽力は旺盛、芽数が多く狭枝幅樹形とすることができる。太い枝できた場合、その切り口から数多くの枝がでて1m程度伸びる。 美しい樹形を維持するには、一番枝～三番枝までをバランスよくつくり込み、三番枝部位による切り返し剪定を行う。毎年の剪定ができない場合は、3年毎に主枝(一番枝)部位から切り落とすこととなる。
3	エンジュ	エンジュは、元々サビ病に掛かっている木が多く、中から腐って枯れ倒木の危険がある。	定期的に樹木の状態を確認しながら、枯木は早目の伐採が有効的である。将来的に樹種変更が必要である。	生長旺盛で、主枝(一番枝)部位による強剪定を行った場合、その年にでた枝の伸びは1.0m程度に達する。 剪定のポイントは、一番枝～三番枝までをバランスよくつくり込み、三番枝部位による切り返し剪定を行うことが重要である。
4	クスノキ	木が大径化し、枝の越境や下枝が下がってきている箇所が見受けられる。根上りあり。	生育空間の狭い所では、自然樹形に適していない。一度骨格剪定をしてから、3年毎の下枝上げ軽剪定が理想である。	イチョウと並んで代表的な長寿の木である。萌芽力があり、電柱状に寸胴切りしたものも7～8年でほぼ自然な樹形に回復する。 主枝(一番枝)部位による強剪定を行った場合、当年枝の伸びは1.0m程度に達する。枝のつくり込みが難しく、狭い道路空間ではクスノキの持つ美しさを出すことはできない。狭い道路空間では、数年に一度切り返し剪定を行う。
5	ケヤキ	枝数が多く、樹形が横に広がっている為枝の越境や落ち葉・日照障害の苦情が多い。	細身の樹形に変える。樹高を押しさえ定期的に除伐を繰り返して枝数を減らす。	広い傘型樹形で、生長は速く喬木となる。建築限界線の関係から片枝を落とすこととなり、ケヤキ特有の樹形の維持は困難である。
6	コブシ	樹形が小さい木が多く、障害になっている樹木が少ない。	以外と生育速度が遅いので、下枝を上げ縮小樹形とする。	コブシは、太い枝を途中から切ると、その切り口から多数の小枝が発生し樹形を大きく損ねることとなる。早め早めに不要枝の枝抜き剪定を行う必要がある。なお、冬季剪定に際しては花芽をなるべく落とさないよう注意が必要である。
7	サクラ	自然樹形仕立てによる管理を行っている。	枝の越境や害虫については、随時対応する。	ソメイヨシノは樹齢が短く、かつ、生育環境が大きく制約される街路樹は、50年が一つの目安である。 樹形は傘状に広がり、太枝の切除は切り口の治癒が困難であることから、狭幅員道路には適していない。 樹勢が弱り腐朽病の発生が認められた場合は、早めの伐採更新が必要である。
8	シラカシ	樹形間隔が狭く、過密している。	普通の剪定では2～3年で元の樹形に戻ってしまうので下枝をあげ縮小樹形に対応する。	生長旺盛で萌芽力も強い。太い枝を途中で切除すると、その切り口から多数の小枝が発生し樹形を損ねることとなる。 このため、樹冠の維持は切り返し剪定を基本に透かし剪定(中透かし)を行う。
9	シダレヤナギ	永山駅周辺の街路に植樹されている。土壌環境が悪い(海成粘土)ため、毎年台風時には、倒木の危険がある。	樹形を小さくし、軽くすることで対応を図る。将来的には樹種更新が必要。	長野県に樹齢1000年をこえ巨樹として有名な笹原のシダレヤナギがある。しかしながら、生育環境の悪い街路樹では、一般的に50年程度ではないかと言われている。シダレヤナギは排水性の悪い場所に植えられることが多く、生長旺盛であることから倒木しやすい。倒木被害が出始めたら早めに伐採し植え替えることが望ましい。
10	スズカケノキ (ブラタナス)	成長が早く樹勢が強い。葉が大きく沿道住宅は枝の越境や落ち葉の苦情が多い。ケンバウムシが発生しやすい。	自然樹形に向かない。定期的な剪定が必要。建築限界の確保は必死条件である。	明治12年、新宿御苑に植栽され、その種子を播種し街路樹として用いられるようになったと言われている。 萌芽力が強く強剪定に耐える。枝の伸びが著しいので建築限界線を確保するには毎年の剪定が欠かせない。コンバクトで美しい樹形を維持するためには、道路空間条件に応じて、一番枝から三番枝までをバランスよくつくり込み、枝抜き剪定と切り返し剪定を行うことが重要である。
11	トウカエデ	紅葉が綺麗である。成長が穏やかである。	自然樹形に比較的向く樹木である。	強剪定に耐え、盆栽としても珍重される。太い枝を切ると、その部分から数多くの小枝がでて樹形を損なうこととなる。一番枝から三番枝までをバランスよくつくり込み、枝抜き剪定と切り返し剪定を行うことで、自然な樹形を維持することができる。
12	トチノキ	成長が早く樹勢が強い。葉が大きく落ち葉の苦情が多い。トチノキヒメヨコバイが発生しやすい。	自然樹形に向かない。定期的な剪定が必要。建築限界の確保は必死条件である。	生長は速く、喬木となる。広樹形であり狭幅員道路には不向きである。枝葉が混み合うと太い枝が枯れ、落下する危険性があるので、枝抜きを行い陽が入り込むようにする。
13	ハナミズキ	花が綺麗で成長が穏やかである。	自然樹形に向く樹木である。	生長は遅く、ほとんど剪定の必要はない。樹高が伸びず車道側の建築限界線までの下枝を切除すると、枝が残らず、緑量を求める街路樹には適さない。
14	モミジバフウ	紅葉が綺麗であるが、成長が早く、害虫が着き易い。上之根大通りは紅葉の時期は綺麗で市民からの問合せ有り。	沿道に建物が接してなく道路幅員が広い路線では、自然樹形に適している。	生長は速く、萌芽力は旺盛である。樹形は比較的につくりやすく、狭樹形型とすることもできる。一番枝から三番枝のバランスをとることが重要である。
15	メタセコイヤ	紅葉が綺麗である。メタセコイヤ通りは人気が高い。アサヒタウンズに取付された。	沿道に建物が接してなく道路幅員が広い路線では、自然樹形に適している。	生長が非常に速く、上に伸びることから数年に一度頭を止め、新たに芯立てを行なう必要がある。樹形が乱れる木ではないので、広い道路空間では数年に一度剪定すればよい。狭い道路空間ではイチョウに準じた剪定を行う。
16	ハクウンボク	5月の新緑時期の白い花が綺麗である。この樹木は貝取大通りだけしかなく、花の満開の時は市民からの問い合わせも多い。	沿道に建物が接してなく道路幅員が広い路線では、自然樹形に適している。	15m程度まで成長する。 自然樹形としてのバランスをとると共に花芽の形成時期に注意して剪定を行う。